様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	61・啓林館	第１学年 第２学年 第３学年	数学・732・733 数学・832・833 数学・932・933	未来へひろがる数学１・MathNavi ブック１ 未来へひろがる数学２・MathNavi ブック２ 未来へひろがる数学３・MathNavi ブック３

取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　数と式 　第１学年では、集めたはがきの枚数を数えずに求める等式にある数を代入して式の値を求める活動、第２学年では、２つの袋に分けた碁石のそれぞれの袋の中の数を求める方程式を立てて解を調べる活動、第３学年では、カレンダーの誕生日の真上にある日の数と真下にある日の数の積の関係から誕生日を求めるための方程式の解き方を考える活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　図形 　第１学年では、はさみを入れた折り紙を広げてできたいくつかの図形に着目して移動の方法を考える活動、第２学年では、色々な幅のリボンが重なった部分の四角形の性質や特別な四角形になる条件を調べる活動、第３学年では、直接には測定することが困難な池をはさんだ２地点の距離を相似な図形の性質を利用して求める活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　関数 　第１学年では、同じ大きさの正方形で作った箱の底面の１辺の長さと高さなどの２つの量の関係を調べる活動、第２学年では、水槽に一定の割合で水を入れたときの時間と水位の関係について表を用いて調べる活動、第３学年では、斜面を転がるボールの転がった距離と転がり始めてからの時間の関係を表やグラフを用いて調べる活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　資料の活用 　第１学年では、ひと月に図書館から借りた本の冊数を調べた資料を表やグラフに整理して考える活動、第２学年では、２枚の硬貨の表と裏の出方の起こりやすさの程度を表やグラフに表わして傾向を調べる活動、第３学年では、箱の中に入っている白玉の個数を無作為に取り出した玉の数から推測する活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　知識・技能の習得・活用、探究での対応 　第１学年では、買い物の代金をｘとｙを用いた式で表すなどの活動、第２学年では、３枚の硬貨の表と裏の出方を調べるなどの活動、第３学年では、三角形の３つの辺の長さから三角形が直角三角形かどうかを調べる活動など、補充的な学習活動が取り上げられている。
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 　第１学年では、大小関係を表している具体的な式の意味を考える活動の後に、文字を含む等式の文字に当てはまる値を求める活動を取り扱い、第２学年では、三角形の合同条件を使った証明の進め方を考える活動の後に、二等辺三角形の性質を見付けて証明する活動を取り扱い、第３学年では、円周角の定理を使って、ある条件の円内の２組の角が等しいことを証明する活動の後に、直角三角形の各辺を１辺とする３つの正方形の面積の関係を調べる活動など、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 　第１学年～「数と式」は106ページ、「図形」は72ページ、「関数」は36ページ、「資料の活用」は27ページであり、総ページ数は329ページで、前回より約17%増となっている。 　第２学年～「数と式」は52ページ、「図形」は66ページ、「関数」は38ページ、「資料の活用」は23ページであり、総ページ数は261ページで、前回より約27%増となっている。 　第３学年～「数と式」は86ページ、「図形」は92ページ、「関数」は32ページ、「資料の活用」は17ページであり、総ページ数は335ページで、前回より約25%増となっている。
使用上の配慮等	○　学習に入る前に、興味・関心をもって学習できるよう、数学的活動を取り入れた「学習のとびら」を各章の始まりに設ける（全学年）とともに、別冊に、数学の楽しさを実感できる「自由研究に取り組もう」などを設ける（全学年）など、生徒の学習意欲を高めるための工夫がなされている。 ○　本文中に、これまでに学習したことを振り返ってまとめる「自分の考えをまとめよう」を設けたり（全学年）、別冊に、既習内容を確認することのできる「学びをつなげよう」などを設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　巻頭において、「この本の使い方」「学習の進め方」「ノートの工夫」などの学習方法を示したり（全学年）、別冊に、様々な学習形態への対応や学習の理解を深めるための内容を示したページを設けたり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。
その他	○　北海道と関連のある教材は、「旭川市の最低気温」など、５箇所取り上げられている。 ○　全体的に落ち着いた配色にしており、全ての生徒に必要な情報が伝わるようカラーユニバーサルデザインに配慮している。 ○　本冊に加えて、各章の学習と関連のあるこれまでに学んだ内容や、活用した場面を取り上げた別冊の「MathNavi ブック」を新設している。